

JIRA 画像医療システム産業ビジョン 2020

1. JIRA産業ビジョン策定の目的

医療機器産業が大きく成長することが期待される中、国際的にもポテンシャルの高い画像医療システム産業は、産業界が同じ認識と方向性を持って国の政策等と連携し、産業成長をリードするとともに、日本及び世界の医療への更なる貢献を目指す。

一般社団法人日本画像医療システム工業会（JIRA）は画像医療システム産業の2020年を想定した将来ビジョンを示し、それを実現するための基本戦略、取り組みを明確にする。これを会員企業、医療関係者、官学、国民、および海外の関係者に示して、理解・共有化いただくことにより、JIRAの工業会活動の方向付けと活性化を図り、産業の強化・拡大の基礎とする。

2. 2020年、世界・日本の社会、医療、医療機器産業

(1)世界

- ①新興国等世界の人口の増加、新興国の経済成長に伴い、医療・健康の市場が急激に拡大する。一方で先進国、新興国とも少子高齢化が進み、その対応が各国共通の課題となる。
- ②医療技術の研究開発が加速するに伴い、医療機器への新たなニーズも拡大し、医療機器産業の医療への貢献の拡大、市場の成長・拡大が期待される。
- ③国際関係のボーダレス化、多様化が進み、医療、および医療経済でも新たな国際的仕組み・枠組みが生まれる。
- ④社会全体としてエネルギー、環境・安全、災害対応が世界規模で課題となり、健康・医療分野でも多様な社会的ニーズに応えた医療機器、システム、サービスの提供が期待される。

(2)日本

- ①少子高齢化は日本が先頭を走り、人口は減少に転ずるが中でも医療費は高齢化に伴い急増し、経済的問題を中心に対応が求められる。
- ②日本の医療を支えるために医療機器産業の強化が必要であり、安全安心・高品質、および日本の得意な分野での技術開発を進めるとともに、国際的な医療ニーズへの貢献として医療機器産業の国際展開を実現することが重要な条件となる。
- ③ボーダレスにより日本市場に対する外からの攻勢・圧力も強くなるが、海外との関係・機会も拡大。国策と連動した海外展開体制構築、スピード感のある戦略による国際競争力強化が急務。
- ④日本は少子高齢化に加え、環境対応、災害対策等の課題先進国として、日本ならではの医療機器開発、医療サービス体制構築を行い、海外への展開・普及を目指すことがポイント。

3. 2020年、画像医療システム産業が目指すビジョン

【画像医療システム産業の特徴】

1. 低侵襲な早期診断・治療に大きく寄与し、他技術と連動してより高度な医療を提供するポテンシャルを持つ。
2. 画像診断を中心に、予防・健診・診断・治療までの医療技術の柱となり、広く健康・医療を支えている。
3. 早期からICTの取り込みを行い、医療技術の高度化、安全安心、アプリケーション開発等をリードしている。
4. 日本の得意技術開発、高品質によって国際競争力を持ち、グローバルな事業を展開している。

画像医療システム産業の特徴を核として、
①医療への貢献、②産業拡大
を実現する。

【戦略的】	1. 少子高齢化社会において世界に先駆けた医療イノベーションを実現する	医療ニーズにマッチした、高精度・高機能、低侵襲の画像診断・放射線治療等の技術探求と拡張により、以下を実現する。 ①診断・治療の連携強化と、早期診断・低侵襲治療によるQOLの向上 ②新たな医療技術分野と連動した画像医療システム産業の強化・拡大
	2. 予防・健診・診断・治療から、広くヘルスケアの領域で、質の高い医療環境を実現する	環境性能、災害・緊急時対応にも優れた省エネ、小型、機動的医療機器の開発の促進、および医療情報の蓄積と利活用の環境整備により、以下を目指す。 ①画像医療システムの普及と医療情報の利活用拡大 ②健康・医療・介護のシームレスな画像医療システム・サービス産業の展開
	3. ICT利活用促進により医療の質向上と医療機器産業拡大に貢献する	画像医療システム産業へのICT利活用促進により、以下に貢献する。 ①医療の高度化と診療支援技術の拡大、診断と治療の連動、新たな臨床知の創出、医療の更なる安心・安全・効率化 ②遠隔医療、地域連携、予防・介護・ヘルスケアなどの関連産業創出
	4. 日本ならではの医療、医療システムを世界に提供し貢献する	画像医療システム・サービスの国際展開戦略、および戦略に基づく国際整合、知財戦略により、以下を目指す。 ①日本の医療圏拡大、海外展開の加速による世界の医療への貢献 ②医療機器産業の輸出拡大